

千代鈴全勝優勝

紙相撲新聞

第159回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

若嶋春翔休場の中、綱の責任を全う

万全の取り口、千代鈴時代の到来の予感

【第百五十九回本場所十日目～千秋楽】

第159回本場所十日目と千秋楽が猛暑の中、8月26日に開催され、横綱千代鈴が横綱として初めて、自身としては4回目となる優勝を見事全勝で飾った。千代鈴は匠の強さをみせ、1敗で追走する同部屋西神門が十日目に2敗目を喫し、千代鈴が鹿富士に勝ったことで千秋楽を待たずに十日目に優勝が決まった。

三賞は、若ノ嶋、春ノ翔の2横綱を破った小結四季嶋が殊勲賞(初)、敢闘賞は優勝争いで千代鈴を追走して横

綱をヒヤヒヤさせた西神門(初)、技能賞は朝日松理事長が絶賛する左差し相撲が冴えた綱乃花(初)と自己最高位の前頭筆頭で横綱春ノ翔と大関大神楽に勝って8勝3敗とした鉄甲(初)がそれぞれ受賞した。

横綱千代鈴は、九日目までまったく危なげのない横綱相撲で白星街道を轟進。九日目を終えて、1敗で同部屋西神門、2敗で綱乃花、鬼ヶ嶽、喜乃郷の3人が追いかける展開。

今場所は先場所優勝を争った若ノ嶋、春ノ翔の先輩横綱が早々に休場し、綱乃花が一人横綱となった。まだ横綱2つとなつた。また横綱2つは相当なものがあったと思われるが、そのような

西神門が力をつけてきたことを肌身で感じていて、稽古場では負けることも度々あったようで、他の誰よりも対戦したくない相手だったようだ。しかし、そんな心配は取り越し苦労で、十日目は関脇鹿富士を寄せつけず、千秋楽も善戦した大関大神楽を最後は寄り切つて有終の美を飾った。

大関大神楽は九日目を終えた時点で5勝4敗とまだ勝越していない状況。先場所の3横綱との優勝争いでの疲れが出たのか、初日から連敗スタートとなつて磯ノ海親方をやきもきさせ、三日目から星を戻したものの、ここで連敗すれば負け越しとなる。

「十日目の西神門には何が何でも勝たないと」と気合が入る。西神門も優勝のためには負けられない一戦だったが、大神楽が大関の貫禄をみせて何とか勝ち越しを決めた。磯ノ海親方は「勝ち越し

「！良かったあー！」とホッと胸を撫で下ろしていた。

小結四季嶋は九日目を終えて5勝4敗と関脇越す可能性のある星勲定。今場所は初日に横綱春ノ翔、二日目横綱若ノ嶋に勝つ殊勲の星をあげ、勝ち越せば殊勲賞間違いなしという状況だった。

「いや〜何とか勝ち越したいなあ〜！」と勝間田親方。すると十日目に関脇烏帽子岳を押し倒して破り、勝ち越しを決めるとともに殊勲賞を受賞した。

自己最高位の前頭筆頭で九日目に勝ち越しを決めた鉄甲。来場所の新三役昇進を確実にすると、十日目は喜乃郷、千秋楽は照の王に勝つて8番まで星を伸ばした。「技能賞をあげてもいいんじゃないか？」との声が上がった。初賞となった。これには勝間田親方も思わず「こつこつあんです！」と大喜びしていた。

先場所負け越しして結から陥落した綱乃花だったが、今場所は体重も増えたこともあり左差しが冴え、十日目は元大関鬼ヶ嶽を左差しからの速攻で寄り切つて8勝目をあげた。



綱乃花●(寄り切り)○西神門

「こういう相撲を目指していたんだよ！」とご満悦の友砂親方。まさに技能賞に値する相撲だった。

千秋楽はこちらも8勝をあげている西神門



鬼ヶ嶽●(寄り切り)○綱乃花



鉄甲○(引き落し)●喜乃郷



西神門●(寄り切り)○大神楽



↑ 10戦全勝の横綱千代鈴は千秋楽も大神楽を圧倒。一度は寄りを凌がれたものの落ち着いた取り口で改めて寄り切った。

↓ 十日目、勝つとすれば寄りを凌いで引き落とし、と語った鹿賀乃戸親方だったが、回り込めず、寄り切りで千代鈴が圧倒した。



「十日目の西神門には何が何でも勝たないと」と気合が入る。西神門も優勝のためには負けられない一戦だったが、大神楽が大関の貫禄をみせて何とか勝ち越しを決めた。磯ノ海親方は「勝ち越し